

# 令和4年度 事業報告書

社会福祉法人  
遠賀町社会福祉協議会

## ★目次★

序文	1
＜総務系＞	
Ⅰ．定例役員会の開催	2～5
Ⅱ．会計・経理	5
Ⅲ．会員増員の推進	5
Ⅳ．その他の庶務	6～8
＜事業系＞	
Ⅰ．地域福祉活動の促進	9～13
Ⅱ．ボランティア活動の啓発・支援・推進	14～16
Ⅲ．福祉教育活動の推進・啓発活動の充実	17～18
Ⅳ．他団体との協力による地域福祉の促進	19～20
Ⅴ．いきいきデイサービス事業【町受託事業】	21～22
Ⅵ．地域子育て支援拠点事業【町受託事業】	23～26
Ⅶ．障がいを抱える方への支援の推進	26
Ⅷ．生活困窮者への支援の推進	27～29
Ⅸ．相談支援・権利擁護事業の拡充	30
Ⅹ．その他の事業	31～34
Ⅺ．新型コロナウイルス感染症対策事業	35
社会福祉法人福岡県共同募金会遠賀町支会の取り組み	36～38

## ★事業報告★

令和4年度は、第4次地域福祉活動計画（令和4年～令和8年度）の初年度でした。地域共生社会の実現に向け、前計画までで培った成果を受け継ぎ、新たな事業を展開するための大切な年であり、また、3年以上続くコロナ禍に対しては、昨年度に続き、社会的弱者救済に尽力する1年でした。

本会が取り組む地域福祉とは、人々が安心して暮らせるよう、住民や社会福祉関係者がつながり合い、地域の課題に取り組む福祉です。一人ひとりが助け合うことで、全ての人々の生活を豊かにすることを目的にしています。

「全ての人々の生活を豊かに」という一文は、コロナ禍において、特に、私たち福祉従事者が守らなければならない大切な信条でした。具体的な取組みとしては、生活福祉資金における特例貸付や緊急用食糧等給付事業といった生活困窮者支援を展開し、制度のはざまの問題に取り組んだほか、高齢者のデジタルデバйдに対応するため、コロナワクチン接種のためのインターネット予約補助を行っています。

直接的なつながりが制限された中で、福祉ネットワーク推進事業やボランティア活動の推進等、一貫して続けてきた地域福祉活動は、従来通りに進められない場面もありました。地域活動の自粛は、下半期から徐々に回復傾向に向かいましたが、それでも以前と同じようにはいきません。中止・廃止される活動があり、一度止まった活動を再び動かすには、甚大な労力が必要でした。

しかし、それでも、浅木区の買物支援活動や松の本区公民館の無料開放の取組み、尾崎秋祭りの開催等、各地域の活動で生まれる笑顔が、つながりを諦めてはいけないということを提示しています。浅木校区協議体が開始したベンチづくりも集い場を再構築しようとする取組みです。こうした動きに寄り添いながら、多様な地域住民を包括した助け合いの輪を広げられるよう、本会は、今年度も、第2層生活支援コーディネーターを筆頭に、地域福祉の推進という使命に邁進しています。

また、災害対策としては、職員間でのシミュレーション訓練を通して、災害ボランティアセンター（以下、災害VC）設置・運営マニュアルが実用に足るものか諮り直しました。改善箇所の発見もあり、今後の課題として修正を重ねる所存です。

さらに2月には、福岡県社会福祉協議会の災害福祉支援センターや平成29年7月九州北部豪雨を経験した朝倉市社会福祉協議会の職員を講師に招き、役職員研修を実施する等、事務局内に留まらないオール社協での災害対策を意識しました。

漫然と事業をこなすのではなく、今やるべきことは何か問い続けることで、各事業の持つ効力を最大限に発揮し、その組み合わせによって、制度のはざまに対しても有効な相乗効果を得られるよう、一致団結の精神で取り組んだ1年です。

令和4年度事業実績の詳細は、次のとおりです。

## ☆事業内容☆ &lt;総務系&gt;

## I. 定例役員会の開催

社会福祉法人である本会の経営組織は、業務執行の決定機関である理事会、法人運営に係る重要事項の議決機関である評議員会、理事の職務執行の監査を行う監事で運営されています。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議での実施を複数回行いました。

## (1) 理事会

開催回	開催日	協議内容
第1回	書面決議 決議日： 5月6日	議案第1号 理事候補者の推薦について 議案第2号 臨時評議員会の開催について
第2回	5月31日	議案第1号 令和3年度遠賀町社会福祉協議会事業報告の承認について 議案第2号 令和3年度遠賀町社会福祉協議会決算報告書類の承認について 議案第3号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第1号）について 議案第4号 定時評議員会の開催について 報告第1号 社会福祉充実残額について
第3回	書面決議 決議日： 9月10日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第2号）について 議案第2号 臨時評議員会の開催について
第4回	10月21日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第3号）について
第5回	12月16日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第4号）について 議案第2号 使途指定寄付金による助成金交付要綱（案）について 議案第3号 臨時評議員会の開催について 報告第1号 会長の職務状況の報告（上半期）について

新型コロナウイルス感染防止の観点から、適宜、書面による開催を図り、直接的な集合を最小限に留めて実施。

開催回	開催日	協議内容
第 6 回	書面決議 決議日： 2 月 22 日	議案第 1 号 理事候補者の推薦について 議案第 2 号 臨時評議員会の開催について
第 7 回	3 月 22 日	議案第 1 号 定款施行細則の一部改正について 議案第 2 号 事務局規程の一部改正について 議案第 3 号 職員就業規則の一部改正について 議案第 4 号 職員給与規程の一部改正について 議案第 5 号 令和 4 年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第 5 号）について 議案第 6 号 令和 5 年度遠賀町社会福祉協議会 事業計画書及び予算書について 議案第 7 号 役員等賠償責任保険の契約の締結について 議案第 8 号 定時評議員会の開催について 報告第 1 号 会長の職務状況の報告（下半期）について 報告第 2 号 社会福祉法人指導監査の結果について 報告第 3 号 諸井会計による本会事業及び会計に関する調査結果について

## (2) 評議員会

開催回	開催日	協議内容
第1回	書面決議 決議日： 6月14日	議案第1号 理事の選任について
第2回	6月22日	議案第1号 令和3年度遠賀町社会福祉協議会事業報告及び決算報告書類の承認について 議案第2号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第1号）の承認について 報告第1号 社会福祉充実残額について
第3回	書面決議 決議日： 11月29日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第2号）の承認について
第4回	10月21日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第3号）の承認について
第5回	12月16日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第4号）の承認について 報告第1号 使途指定寄付金による助成金交付要綱の制定について
第6回	書面決議 決議日： 3月7日	議案第1号 理事の選任について
第7回	3月30日	議案第1号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会補正予算（第5号）の承認について 議案第2号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会事業計画書及び予算書の承認について 報告第1号 細則、規程及び規則の一部改正について 報告第2号 諸井会計による本会事業及び会計に関する調査結果について

## (3) 監査

開催回	開催日	協議内容
第1回	5月20日	令和3年度業務監査 令和3年度決算に伴う諸帳簿・伝票・決算書類等の監査 令和3年度福岡県共同募金会遠賀町支会会計決算監査

## Ⅱ. 会計・経理

定期的に税理士からの監査を受け、公正な会計処理を行いました。

月日	内 容
4月28日	令和3年度2、3月分 税理士による監査
5月20日	令和3年度分 社協監事による監査
5月25日	令和3年度分 税理士による税額計算報告・総評 (※緊急事態宣言下のため、電話にて説明を受ける。)
7月5日	令和4年度4、5月分 税理士による月例監査
8月31日	令和4年度6、7月分 税理士による月例監査
10月11日	令和4年度8、9月分 税理士による月例監査
12月27日	令和4年度10、11月分 税理士による月例監査
3月15日	令和4年度12、1月分 税理士による月例監査

## Ⅲ. 会員増員の推進

本町に在住する方、社会福祉関係機関及び本町に事務所又は事務所を有する団体で、本会の目的に賛同し、入会いただいた方を会員としています。

地域福祉活動の発展のための財源として、区長の協力の下、広く町民や事業所への訪問を通じて会費協力を努めました。

合計：4,346件 2,792,150円（昨年度：4,493件 2,867,550円）

	協力数（件）	金額（円）
一般会員	4,246	2,123,150
賛助会員	59	59,000
特別会員	41	610,000

昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、特別会費は文書での依頼となった。浄財額は昨年度と同額を維持しており、一般、賛助会員数が減少する中、貴重な財源となっている。

#### IV. その他の庶務

##### (1) 寄付の受入れ

香典返しによる寄付件数は、昨年度からさらに減少し、金額も減少に転じています。

合計：48 件 1,048,805 円（昨年度：51 件 1,429,365 円）

	協力数（件）	金額（円）
一般寄付	5	125,805
香典返し	42	873,000
使途指定寄付	1	50,000

コロナ禍等を要因とする家族葬の増加により、今後とも件数増加は厳しいとみられ、自主財源の確保には、他の収入源を見つける必要がある。

##### (2) 職員の安全衛生管理・労務管理

職員の安全衛生を図るため、下記内容に取り組みました。

月日	内 容
4～3月 (月1回)	気になるリスクの確認 4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動の実施
6月6、7日	健康診断
5月17日 7月27日 9月28日 11月16日 12月21日 2月8日	保健師による健康相談 (西日本産業衛生会)
5月17日 9月28日 2月8日	嘱託産業医による健康相談 (西日本産業衛生会)



## (3) 職員の知識技能習得のための研修会への参加

地域福祉事業を行うためには、現在の福祉の動向を十分に理解している必要があるため、職員の資質の向上、スキルアップを図るよう研修会への参加等を積極的に行いました。

月	日	研修内容
5	12	市町村地域福祉計画に関する研修会及び福岡県再犯防止推進市町村連絡会議※
7	9	認知症世界の歩き方カレッジ
	9	安全安心につながる防災事業 助けあい！～共助の心を育もう～
	29	福岡県日常生活自立支援事業 第2回契約締結審査会
8	19	生活福祉資金システムの市町村社協への導入に関する説明会※
9	13	「ふくおか“きずな”フェスティバル」第2回実行委員会
	16	安全運転管理者講習会
10	6	福岡県法律相談合同研修会
	14	災害ボランティアセンター設置運営訓練 全体研修※
	26	福岡県社会福祉大会
2	19	ふくおか“きずな”フェスティバル
	25	伴奏型支援基礎講座※
3	31	生活困窮者支援事業研修会※

※オンライン研修・動画視聴型研修

精神保健福祉士国家資格取得：2名

## (4) 会議等への職員の派遣

会議名	出席回数
遠賀町あんしん地域づくり協議会	3
遠賀町障がい者施策等検討委員会	1
遠賀町子ども子育て会議	1
遠賀町生涯学習推進協議会	2 (書面開催)
遠賀町地域福祉計画推進委員会	1
遠賀町地域福祉計画推進ワーキング	1 (メール開催)
遠賀町高齢者保健福祉計画策定委員会	0
遠賀町障害福祉サービス審査会	6

## ☆事業内容☆ &lt;事業系&gt;

## I. 地域福祉活動の促進

## 1. 福祉ネットワーク活動

福祉ネットワーク推進委員会の活動を支援し、地域の助け合い、支え合いの輪が広がるよう以下の事業に取り組みました。

## (1) 福祉ネットワーク推進委員研修会

村瀬孝生氏を招いて「私たちでつくる共生社会」をテーマに認知症の方にとって住みやすい地域、暮らしやすい町とは何か、経験を通して分かりやすくお話いただきました。

開催日：7月2日（土）

参加者数：91名

会場：遠賀町中央公民館

講師：宅老所よりあい・よりあいの森 代表 村瀬 孝生 氏

内容：「私たちでつくる共生社会」

## (2) 福祉ネットワークオリエンテーション

23 行政区全ての地区を訪問し、福祉ネットワーク活動について説明をすることができました。

実施回数：23回（昨年度：1回）

開催地区：23地区（昨年度：1地区）

延参加者数：267名（昨年度：13名）

実施日	地区名	参加者数	実施日	地区名	参加者数
11月12日	島津	4	5月20日	中央	15
5月25日	若松	9	6月8日	広渡	12
4月22日	鬼津	16	6月9日	木守	10
5月19日	尾崎	11	6月22日	上別府	15
11月6日	田園北	9	7月12日	若葉台	8
6月18日	田園南	19	7月5日	東和苑	15
5月14日	別府	13	5月19日	浅木	10
6月1日	今古賀	6	5月17日	虫生津	6
5月16日	松の本	29	6月14日	芙蓉	6
8月17日	遠賀川	10	6月11日	緑ヶ丘	15
11月18日	旧 停	4	5月18日	老 良	7
6月23日	新 町	18			

コロナ禍の影響か参加者は過去の実績よりも減ったが、分かりやすい話で参加された方からは好評を得た。

福祉ネットワーク活動の説明の中で、見守りのポイントについて関心を持っていただけた。福祉ネットワーク推進委員だけでなく、地区役員にも「見守りポイント」の絵図を配布し、見守りの啓発を行う地区もあった。

## (3) 福祉ネットワーク友愛訪問

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ビデオメッセージ（DV D）を添えて、町内高齢者施設に届けて世代間交流を促進しました。

鉢植え数：1,150 鉢（昨年度：1,090 鉢）

実施日	学校名	鉢植え数（鉢）
11月17日	島門小学校	400
11月18日	広渡小学校	370
11月25日	浅木小学校	380

## (4) 介護予防型サロン活動への支援

教室名	資格	講師名
体操教室	運動指導士	一井 久美子 氏 高橋 由美子 氏 淵上 香 氏 松永 幸代 氏
	レクリエーション インストラクター	田仲 靖子 氏
口腔教室	歯科衛生士	手島 恵美 氏 中倉 まき子 氏 鍋島 美音 氏 吉廣 むつ子 氏
栄養教室	栄養士	奥尾 久美子 氏

実施回数：138回（昨年度：86回）

開催地区：23地区（昨年度：20地区）

延参加者数：2,745名（昨年度：1,462名）

地区名	回数	地区名	回数	地区名	回数
島津	1	松の本	5	若葉台	2
若松	7	遠賀川	9	東和苑	19
鬼津	12	旧 停	1	浅 木	6
尾崎	12	新 町	1	虫生津	8
田園北	7	中 央	3	芙 蓉	1
田園南	4	広 渡	3	緑ヶ丘	10
別 府	9	木 守	8	老 良	6
今古賀	3	上別府	1		

※本会が講師調整した活動及び職員が訪問した活動の集計。

ネットワーク推進委員と児童が一緒に高齢者世帯を訪問することで、地域内での交流活動の一環となるよう、小学校の協力をもらいながら取り組むことができた。

本会が講師の調整をせずに、独自で運営している地区にも訪問したことで、23行政区すべてのサロン活動を把握することができた。この全地区訪問は今後も継続していく。

## 2. 生活支援体制整備事業（第2層生活支援コーディネーター）

### 【町受託事業】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温、マスク着用、飛沫感染防止プレートを使用し、協議体を開始しました。協議体メンバーを刷新し、新しいメンバーでの協議体となったため、本事業と協議体について説明し、理解を求めました。

### （1）小学校区単位での取り組み

島門・広渡校区に1名、浅木校区に1名の計2名の生活支援コーディネーターを配置し、サロン活動やオリエンテーションの機会を通して、地域に出向き、本事業について理解を深めてもらえるよう努めました。

### （2）協議体の運営・支援

実施回数：14回（昨年度：1回）

延参加者数：91名（昨年度：21名）

#### 【島門校区】（協議体愛称：翼の会）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	6月14日	3	前年度の協議体の振り返り
第2回	9月20日	6	生活支援体制整備事業と協議体の説明
第3回	11月29日	5	話し合いのテーマ決め
第4回	3月30日	6	認知症啓発活動について

3つの協議体で進捗状況に違いはあるが、各協議体ともに、メンバーは話し合いに熱心に参加している。

島門校区では、協議体メンバーは区長から推薦され、認知症啓発について考えることで決まった。

#### 【広渡校区】（協議体愛称：つながり隊）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	6月10日	6	前年度の協議体の振り返り
第2回	9月24日	7	生活支援体制整備事業と協議体の説明
第3回	11月19日	5	認知症基礎講座の内容について
第4回	3月29日	4	認知症基礎講座の講師選定

広渡校区では、認知症基礎講座の開催を行ってはどうかとの意見から開催に向けて、協議を重ねた。

# 【事業評価・分析】

## 【浅木校区】（協議体愛称：浅木 SAN・AI の会）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	5月29日	8	今後の浅木校区第2層協議体の仕組み（案）説明
第2回	7月16日	8	グループワーク「地域の集い場を探そう！」
第3回	9月3日	8	地域の集い場調査報告、これからの方向性を考えよう
第4回	11月26日	10	グループワーク「ベンチ作りの効果を考えよう」
第5回	2月25日	8	グループワーク「さあベンチ作りを始めよう」
第6回	3月25日	7	ベンチの試作

※9月30日 各校区協議体研修会「認知症なかまで備え支え合う」に参加 6名

浅木校区では、「見守り活動の検討」から「見守られポイント（集い場）の発見」に発想がシフトしたことにより、協議体内でベンチ設置のアイデアが生まれた。試作のベンチを製作することはできたが、令和4年度中に設置に至ることはできなかった。協議体メンバーのほか、商工会や㈱ヤマト工芸を巻き込み、準備を進めている。



## 【全体会】

講師による基調講演のほか、校区ごとに選出された各行政区の活動者や生活支援コーディネーターからの発表を通じて、身近な支え合いについて理解していただける場とすることができました。

開催日：令和5年3月4日（土）

参加者数：70名

会場：遠賀町中央公民館

講師：①ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏

②浅木校区 浅木区長 山本 哲次 氏

広渡校区 松の本区長 桑原 武夫 氏

島門校区 尾崎区長 門司 賢治 氏

③（第2層）浅木校区 矢野 隆博

広渡・島門校区 安増 崇徳

（第1層）遠賀町地域包括支援センター 大津係長

内容：①「支え合いのまちを目指して」

②「浅木フラワーバス（買物支援活動）について」

「松の本公民館談話室について」

「尾崎秋祭について」

③「生活支援コーディネーターの活動報告」

全体会という名称が浸透していなかったためか、福祉ネットワーク推進委員の出席等が得られず、参加者数は伸びなかったが、ご近所福祉クリエイター酒井保氏の講演を中心に浅木・松の本・尾崎区の活動報告、第1層、2層生活支援コーディネーターの報告会ともに好評を得ることができた。

## （3）第1層生活支援コーディネーターとの連携

地域包括支援センターと毎月1回の月例定例会議を実施しました。活動の進捗状況の報告や事業内容の説明等、協議しました。

## （4）生活支援体制整備事業だよりの発行

協議体終了後に、生活支援体制整備事業だよりを作成し、協議体の進捗状況の報告等を記載しました。今年度は5回発行しています。

## Ⅱ. ボランティア活動の啓発・支援・推進

### 1. ボランティアセンターの運営

#### (1) 個人ボランティアへの活動支援

新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない中においても、趣味や特技を活かしたボランティア活動として、町内福祉施設でのボランティア活動を支援しました。

しかしながら、多くの福祉施設において、ボランティアニーズがあるものの、受け入れ態勢が難しい状況にあるため、アンケート調査等を通して、各施設職員とコロナ禍での施設内でのボランティア活動について情報交換を行いました。

施設サービスの利用者との関係が途絶えないよう、非接触で交流活動について、情報提供等を行ったが、実際の活動までにはつながらなかった。

個人ボランティア延活動者数：41名（昨年度：43名）

月	延活動者数	月	延活動者数
4	0	10	4
5	4	11	4
6	4	12	4
7	3	1	3
8	4	2	4
9	3	3	4

#### (2) ちょこっとお手伝いボランティアの活動支援

身近な支え合いとしての活動を支援できるよう、連絡調整を図りました。

ちょこっとお手伝いボランティア延活動者数：394名（昨年度：466名）

月	延活動者数	月	延活動者数
4	26	10	34
5	34	11	32
6	30	12	32
7	33	1	40
8	28	2	40
9	29	3	36

依頼の多くが地域包括支援センター経由によるもの。

また、ボランティアを調整するだけではなく、区長や民生委員に世帯状況等聞き取り調査を行う中で、見守り支援につながるよう意識した。



### （３）ボランティア連絡協議会への活動支援

ボランティア連絡協議会の運営支援を行いました。令和４年度の総会は、集合による開催となりました。

定例会の中で、コロナ禍における各団体の取り組みや団体状況等について情報交換を行いました。

### （４）ボランティアグループの支援と助成

「赤い羽根で広がる！福祉ボランティア育成助成事業」を通して、団体のボランティア活動の機会を支援しました。

令和４年度は、研修会の実施、申請団体の交流活動等に活用されました。

申請団体数：４件（昨年度：１件）

申請辞退数：０件（昨年度：０件）

助成団体数：４件（昨年度：１件）

### （５）ボランティア講座の実施

ボランティア活動や地域参加に係る心構えや予備知識を学習する機会の提供及び活動希望者の掘り起こしを目的に開催しました。今回は、若者の参加を促すため、特別企画として、SDGsの視点からボランティアと活気ある地域づくりについて、楽しく学びを深められる場となるよう設定しました。８～１２歳の子どもらの参加がある等、多様な年代の参加者を集うことができ、また、今までにボランティア経験の無い方や新たに民生委員になった方の参加もありました。

開催日：３月２５日（土）

参加者数：１５名

会場：遠賀町ふれあいの里

講師：生きる力を地域が育てる「岡垣スタイル」

代表 眞山 昌 氏

内容：「SDGs de 地方創生 カードゲームで考えよう  
持続可能な地域のつくり方」

### （６）ボランティアに関するアンケート調査の実施

本町の福祉サービス提供事業所へボランティアに関するアンケート調査を実施し、現状のボランティアニーズや今後の課題等について回答を得ることができ、分析を行いました。

送付数：３０通

回答率：５７％

集合開催による  
取組みが再開できる  
ようになってきて  
おり、団体間の  
関係づくりを再構  
築・強化する必要  
がある。

コロナ禍による  
活動自粛の傾向が  
続いていたが、特  
に下半期からは活  
動を再開したいと  
いう団体が増え、  
その希望に寄り添  
う形で助成事業を  
活用いただくこと  
ができた。

講座後のアンケ  
ートではほとんどの  
方が今後ボランテ  
ィアに参加してみ  
たいと回答してい  
るが、ボランティ  
ア保険への加入を  
促すも、当日加入  
者はいなかった。  
講座参加から実際  
のボランティア活  
動につなぐための  
工夫が必要。

## 2. 災害時における災害VCの立ち上げ

### (1) 災害VC設置研修の実施（模擬訓練）

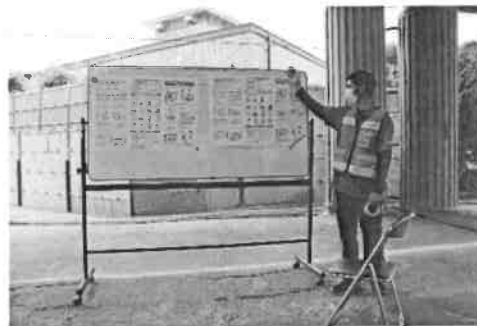
町の避難訓練の実施に合わせて、設置場所となっているふれあいの里で災害VC設置・運営マニュアルに基づいた災害VC設置運営訓練を行いました。

実施日：6月5日（日）

参加者数：6名（職員で対応）

### (2) 各種研修会への参加

- ・福岡県社会福祉協議会研修会
- ・ひびき青年会議所主催研修会
- ・中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会役職員研修会



実際に災害VCを仮設したことで、全体像及び動線等の細部をより明確に確認することができ、改善点を発見できた。

今後、受付の並びやオリエンテーションからマッチングまでの流れ、職員配置やマッチング裏の職員事務スペースの確保等、レイアウトの見直しが必要な箇所があるため、得られた課題をもとに、マニュアル等の改善を図る。

### Ⅲ. 福祉教育活動の推進・啓発活動の充実

#### 1. 地域における福祉教育

##### (1) 広報誌「社協だより」

発行冊数：8,400冊（昨年度：8,280冊）

発行月	主な内容
4	令和4年度事業計画・予算
7	令和3年度事業報告・決算
9	令和4年度赤い羽根共同募金PR
11	地域活動・本会事業紹介
1	本会事業紹介・令和4年度赤い羽根共同募金報告

1月発行の社協だより197号に掲載した「いきいきクラブ」紹介記事が、利用者の増加につながったとの報告があり、事業PRに寄与できている。今後も、本会事業を中心に福祉情報を掲載していく。

##### (2) 住民福祉講演会

遠賀町ボランティア連絡協議会の協力の下、現地でのボランティア活動経験や先駆的取り組み、人と人とのつながりを継続できるための講演会として、国際ボランティア活動をテーマに開催しました。

開催日：7月23日（土）

参加者数：103名

会場：遠賀町中央公民館 大ホール

講師：NPO法人ペシャワール会

PMS 支援室長兼 PMS 総院長補佐 藤田 千代子 氏

内容：「中村哲さんの意志を引き継いで」

#### 2. 学校における福祉教育

##### (1) 小学校福祉教室

3年ぶりに児童たちと直接対面できる機会をいただき、各校で福祉教室を開催しました。対象は小学5年生で、福岡県社協作成の福祉教材「ともに生きる」を配布するとともに、福祉マークのクイズや、町内で活動しているボランティア団体等の紹介を行い、福祉を知ってもらえるように努めました。

本年度は、読み聞かせボランティア「青い麦の会」にご協力いただいています。

マーククイズを盛り込むことで児童の関心を引くことができた。今後も様々な工夫を凝らし、福祉教室を実施していく。

配布数：215冊（昨年度：193冊）

学校名	実施日	配布数（冊）
島門小学校	11月11日（金）	110（昨年度：97）
広渡小学校	1月20日（金）	65（昨年度：52）
浅木小学校	12月2日（金）	40（昨年度：44）

## （２）中学校福祉教室

小学校福祉教室同様、本事業も３年ぶりに開催することができました。感染拡大を防ぐために、体育館等に一堂に会するのではなく、放送室から各教室に配信するリモートでの実施となりました。

### ① 遠賀中学校

開催日：12月20日（火）

対象者：遠賀中学校全校生徒

参加者数：322名

会場：遠賀中学校 各教室

講師：福岡県地域介護実習普及センター 室長 鶴田 弥生 氏

内容：「認知症サポーター養成講座」

### ② 遠賀南中学校

開催日：12月2日（金）

対象者：遠賀南中学校全校生徒

参加者数：126名

会場：遠賀南中学校 各教室

講師：福岡県地域介護実習普及センター 室長 鶴田 弥生 氏

内容：「認知症サポーター養成講座」

中学生に対して認知症について正しい知識を広めることができた。

今後、偏見なく、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で取り組んでもらえるようにするためには継続的な事業実施が必要。

## （３）福祉教育振興助成金の交付

町内小学校３校・中学校２校へ１校当たり20,000円の助成を行い、各校での自主的な福祉教育を支援しました。

学校名	活用例
島門小学校	特別支援学級児童による草花等の栽培活動、四方の里交流会、見守り隊感謝の手紙、もちつき集会、調理実習、等
広渡小学校	
浅木小学校	
遠賀中学校	特別支援学級による工作活動、創作活動、調理実習、花壇づくり、等
遠賀南中学校	

## IV. 他団体との協力による地域福祉の促進

### 1. 社会福祉法人間での連携

#### (1) 遠賀町社会福祉法人連絡会

総合相談事業は、先進地の水巻町社会福祉協議会から高祖事務局長をお招きし、実務担当者の皆さんと意見交換を行いました。

参加法人数：9 法人（昨年度：9 法人）

専門福祉分野	参加法人数	法人名
高齢者	3	筑前会（遠賀園）、 福祉松快園（静光園）、 正勇会（ソレイユ遠賀）
児童	3	朝木会（南部保育園）、 遠賀会（遠賀川保育園）、 童心会（山びこ保育園）
障がい者	2	桃李会（四方の里）、 政憲会（ワークセンターおんが）
地域	1	遠賀町社会福祉協議会

実施回数：2 回（昨年度：2 回）

実施日	参加法人数	内容
5 月 27 日	8	実務担当者会議
2 月 7 日	8	代表者会議

多くの法人から、総合相談事業の開始に前向きな意見をいただく一方で、これまでに相談事業を経験したことのない法人からは、実際の相談に対応することを不安視する声もあった。

高齢者分野で相談支援を行っている法人から「今後経験を重ねることで、対応できるようになる」等のフォローがあっており、今後も各法人の強みを共有しながら協力体制の下、進める必要がある。

## (2) 墓地清掃管理事業

障がい等で就労が困難な方に新たな働き方を提供することをねらいとする事業です。社会福祉法人政憲会ワークセンターおんがや社会福祉法人遠賀中間会みどり園、一般社団法人アポロ ポールスタのスタッフと協力して、高齢等の理由によって墓地清掃が困難な方を対象に、墓地清掃を代行しています。

昨年度からさらに利用者が増加しました。

延利用者数：61 件（昨年度：59 件）

月	一般 (件)	ふるさと納税 (件)	月	一般 (件)	ふるさと納税 (件)
4	1	0	10	1	0
5	0	0	11	0	0
6	0	0	12	11	2
7	0	2	1	0	0
8	10	9	2	1	1
9	8	3	3	11	1

## 2. 災害時対応に向けたネットワーク

災害発生時には、町内のつながりや支え合いも重要ですが、町外の関係機関による支援の受け入れや全国的なネットワークを持つ団体との連絡調整等も大切です。復旧・復興のための力を幅広く、重層的に高めていくために、今年度も以下の協力協定の下、他機関との情報共有を行いました。

- (1) 公益社団法人ひびき青年会議所との災害時相互協力協定
- (2) 中間・遠賀地区社会福祉協議会間での災害時相互支援協定
- (3) ロータリークラブとの災害時相互協力協定
- (4) 町内事業所との連携

ふるさと納税返礼品としての墓地清掃も一定の需要があり、就労支援・高齢者支援・町財源確保の3点に寄与している。

障がいのある方の就労支援を中心に据え、分野を超えた相乗効果を得ていると考える。

新規に協力いただける事業所を獲得した一方で、事業形態が合わず離脱した法人もあり、柔軟な働き方について、今後、協議が必要。

ひびき青年会議所とは、研修会を開催した際には互いに出席し、適宜、情報交換を行っており、平時からの関係性を維持している。

## V. いきいきクラブ事業 【町受託事業】

遠賀町にお住まいの概ね 65 歳以上で介護認定を受けていない方、または要支援 1 及び 2 の認定をお持ちの方を対象に、1 日 800 円で利用できる通所型サービスです。

今年度は「いきいきクラブ」が介護予防を目的とした通所型サービスであることをより多くの地域住民の方々に知っていただくために社協だよりやチラシ等を活用した普及啓発に努めました。

「いきいきクラブ」では決められスケジュールに沿って 1 日を過ごしていただくだけではなく、できるだけ行動制限を設けずに、利用者一人ひとりが、ふれあいの里館内において、その日にやりたいことを安全に実現できるよう、きめ細やかなサポートを行いました。

また、長期化するコロナ禍の影響を受けて外出意欲の低下が見受けられる利用者に対しては定期的に電話でサポートを行い、継続して通所ができるよう支援しました。

延利用者数：3,389 名（昨年度：2,700 名）

開催日数：254 日（昨年度：201 日）

月	開催日数	延利用人数	月	開催日数	延利用人数
4	22	323	10	21	292
5	21	274	11	22	311
6	22	336	12	19	255
7	22	287	1	19	209
8	22	253	2	20	269
9	21	269	3	23	311

### （１）介護予防の実施

令和 3 年度から継続して 6 か月ごとに利用者の体力測定を実施しています。その結果により今後、要介護状態になる可能性が高い利用者に対しては、小倉リハビリテーション病院の専門職が身体機能の維持・向上に向けたアドバイスを行っています。

また、長期化するコロナ禍の影響を受け、利用者の運動不足が懸念されており、いきいきクラブ利用時は運動量を増やしてもらうための下肢筋力低下予防運動として、万歩計を用いた館内ウォーキングを試験的に実施しました。利用者の反応も良く、楽しみながら意欲的に取り組んでもらうことができました。

今後も安全に利用者が実施できるようサポートを行います。

本年度は、長年ご利用いただいていた利用者の介護保険への移行が目立った。一方、新規の利用者も増加したため、大幅な利用者の減少にはならなかった。

「いきいきクラブ」が介護予防を目的とした通所型サービスであるということや元気な方が多く利用されていること等が少しずつではあるが浸透してきている。

また、利用者からの紹介による 1 日体験も増えている。

いきいきクラブの魅力を上手く地域住民に伝えることができれば今後も利用者は増加していくと予想される。

## （２）地域社会との交流の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画・予定していた交流は全て中止となりました。

## （３）選べるレクリエーションの実施

コロナ禍の影響で外出を控え、運動量が減っている利用者が多いため、今年度は、体を動かすことができるようなレクリエーションを中心に実施しました。

また、昨年のお花見ドライブの際に利用者から「車窓だけでなく降りて散策したかった」との声が上がっていたため、今年度は、近場で安全にゆっくり散策できる場所でのお花見ドライブを実施しました。

## （４）福祉専門職との連携強化

利用者に必要とされる介護予防ケアについて、利用者に関わる介護サービス事業所や町の保健師等と情報共有を図り、自立支援に取り組みました。

## 【行事・イベント】

延参加者数：232名（昨年度：264名）

開催日数：20日（昨年度：25日）

行 事	開催日	参加者数
鯉のぼりドライブ	4月16日（土）、 4月19日（水）～22日（金）	53名
買物レクリエーション	中止	
コスモスドライブ	10月18日（火）～22日（土）	58名
おもしろカー大会	中止	
口腔教室	2月7日（火）～11日（土）	66名
お花見ドライブ	3月29日（火）～4月2日（日）	55名



## VI. 地域子育て支援拠点事業 【町受託事業】

子育て支援ひろば「ぐっぴい」、出張ひろば「おでかけぐっぴい」とともに、コロナ禍で休館することも無く、予定していた行事は、少人数制でほぼ実施することができました。

水曜日に実施していた「赤ちゃんの日」は、遠賀町主催の「いっぽ」から「ぐっぴい」へという良い流れができ、また、広い部屋で体を動かせる「おでかけぐっぴい」も人気があり、多くの方が毎週のように利用されました。

### 【ぐっぴい】

延利用者数：2,577名（昨年度：1,870名）

延利用世帯数：1,132世帯（昨年度：796世帯）

開所日数：232日（昨年度：180日）

	大人(名)	子ども(名)
町内	838	978
町外	353	408

月	開所日数	世帯数	大人(名)	子ども(名)
4	21	83	89	105
5	18	65	70	74
6	22	106	108	119
7	22	100	103	128
8	20	77	77	115
9	20	100	104	122
10	22	123	141	153
11	20	90	95	106
12	20	121	127	151
1	20	89	90	103
2	18	103	109	122
3	9	75	78	88

利用者数は昨年より700名程度増え、2,000人を越えた。利用者の年齢は、昨年同様2歳以下が80%以上を占めている。

年間の相談件数の半分以上が、子育て相談員による子育て相談日での相談となっている。地域支援として実施した「マーフィさんのえいごタイム」、おんがにじの会」による催し物は、昨年に続き好評だった。

## 【おでかけぐっぴい】

延利用者数：595名（昨年度：131名）

延利用世帯数：273世帯（昨年度：129世帯）

開所日数：37日（昨年度：27日）

	大人（名）	子ども（名）
町内	227	260
町外	50	58

月	開所日数	世帯数	大人（名）	子ども（名）
4	4	30	30	44
5	2	16	16	18
6	4	35	36	42
7	1	7	7	7
8	4	29	29	41
9	4	34	35	39
10	2	14	15	15
11	4	21	22	22
12	2	8	8	8
1	4	20	20	20
2	4	38	38	40
3	2	21	21	22

## (1) 子育て講座の開催

月	講座名	世帯数	人数
4	乳幼児ビクス教室	6	14
5	乳幼児リトミック	4	8
	《地域支援》 マーフィさんのえいごタイム	7	16
6	おもちゃ作り教室	5	10
	《地域支援》 おんがにじの会 催し物	8	17
7	水遊び	22	52
9	親子ミニ防災教室	4	8
	おもちゃ作り教室	5	10
	《地域支援》 マーフィーさんのえいごタイム	6	12
	《地域支援》 おんがにじの会 催し物	8	16
10	おもちゃ作り教室	4	8
	ハロウィン	45	104
11	親子ヨガ教室	4	8
	おもちゃ作り教室	6	16
	《地域支援》 マーフィさんのえいごタイム	7	17
12	クリスマス会	45	105
1	ふれあい遊びとヨガ	5	10
	《地域支援》 おんがにじの会 催し物	中止	中止
2	口腔指導教室	6	12

## (2) 地域支援事業

地域支援とは、地域の方との交流や地域の資源を活用して行う活動のことです。今年度は、「おんがにじの会」の催し物、遠賀町在住のマーフィ夫妻による「マーフィさんのえいごタイム」を実施しました。

### （３）子育て運営協議会の開催

地域子育て支援拠点事業の推進について協議する運営協議会を開催しました。

	開催日	内容
第１回	２月１４日	・令和４年度実績報告 ・おんがみらいテラスへの移転について

### （４）子育て相談員による子育て相談日の開設

子育てに不安を感じている保護者支援のため、子育て相談を行っています。相談員として元遠賀川保育園の安増直美先生に依頼し、月２回実施しました。

延相談件数：３４件（前年度：３９件）

月	件数	月	件数	月	件数
４	４	８	２	１２	５
５	２	９	４	１	０
６	４	１０	０	２	５
７	５	１１	３	３	０

相談内容は、食事や言葉等が多い。言葉の相談は、役場に繋ぐことの多い相談です。コロナで家の中で過ごす時間が多くなり、子育てに不安を感じている保護者への支援として、一定の役割を果たせている。

### （５）ＰＲ活動の実施

ホームページ掲載や近隣施設へのパンフレット配布、ポスター掲示等の方法により、イベントや開設日時の周知等を行いました。

## Ⅶ. 障がいを抱える方への支援の推進

### （１）障がい者団体間交流促進活動助成金事業

本年度からの取り組みとして、障がいを抱えている当事者団体及び支援団体への案内を行いました。事業申請はありませんでした。

### （２）視覚障がいのある方等への音の広報誌（音訳ＣＤ）の貸出

例年通り実施しました。現在、定期的に２名の方が利用しています。また、遠賀町役場福祉課の窓口にも設置しました。音訳については「音訳ボランティア結の会」の方々に協力いただいています。

ボランティア団体の高齢化が進み、新規加入者が入っていない状況が続いている。

音訳ＣＤ配布回数：３６回

## VIII. 生活困窮者への支援の推進

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響による経済活動の低迷は依然として続いており、特例貸付事業の受付期間は当初の終了日から大きく延長され、令和4年9月末まで続きました。それに伴い、本会も継続した窓口対応を行いました。

### (1) 生活福祉資金貸付事業【県社協受託事業】

生計中心者の失業等、世帯の生計困窮を支援するために福岡県社協が貸付を実施しており、地区民生委員の協力を得ながら窓口業務を行いました。

#### 【特例貸付】

緊急小口資金：一世帯上限 20 万円

総合支援資金：①単身世帯…上限 15 万円×3 か月以内

②複数世帯…上限 20 万円×3 か月以内

延 受 付 件 数：19 件 6,750,000 円 (昨年度：122 件 50,090,000 円)

内、貸付決定数：19 件 6,750,000 円 (昨年度：104 件 46,240,000 円)

内、不承認数：0 件 0 円 (昨年度：18 件 3,850,000 円)

(単位：件)

月	緊急小口資金	緊急小口資金 追加	総合支援資金	総合支援資金 延長	総合支援資金 再貸付
4	1	0	2	0	0
5	3	0	1	0	0
6	0	0	1	0	0
7	2	0	1	0	0
8	3	0	1	0	0
9	1	0	3	0	0

#### 【生活福祉資金】

福 祉 資 金 その他日常生活費：2 件 100,000 円

教育支援資金 就学支度費：3 件 1,147,000 円

(昨年度：1 件 339,000 円)

貸付事業は自立支援を目的としており、償還能力の確認や民生委員の調査書その他必要書類等多く、審査ハードルが高い。

一方、特例貸付に関しては、減収、失業の理由が新型コロナウイルスの影響であれば、申請可能となっていたため、令和3年度までは、通常の貸付申請件数の何倍もの相談があっていた。しかし、令和4年度に入ると、申請件数は減少となっている。

9月末以降、通例での貸付では対象にならない相談も多く、食料支援等必要なケースには、本会の緊急用食糧等給付事業で対応した。

## （２）生活保護世帯等一時貸付事業

生活保護受給決定から初回受給日までのつなぎ資金として、生活保護受給決定者及び受給が確実な者を対象に貸付を行いました。

延利用者数：３件 70,000 円（昨年度：３件 40,000 円）

## （３）ふくおかライフレスキュー事業

既存の公的制度では対応できない臨時的緊急的ニーズに対応する社会貢献の取り組みです。生活困窮者に対して、その住居、衣食、その他日常の生活必需品もしくはこれに要する金銭を支援すると共に生活に関する相談に応じ、課題の解決に努めます。管理者の指揮のもと、サポーターと呼ばれる実働者が業務の実務を担います。

本年度は、事業対象者となりそうな世帯を２件訪問し、調査を行いました。福祉サービス利用援助等で対応できたため、実際の利用には至っていません。

## （４）緊急用食糧等給付事業

新型コロナウイルス感染症の影響で、生活が困窮した世帯に対して一時的支援を行うために、急遽始めた事業です。

生理用品配布事業から始め、その後生活福祉資金の受付や自立相談支援事務所（困りごと相談室）との関わりの中で、金銭に余裕がなく食べるものがないという声を聞くことがあり、緊急的支援として食料品の配布を始めました。

福祉課生活保護担当や困りごと相談室、生活福祉資金申請者等、生活困窮者対策の事業や機関との関わりの中で、必要性がある場合に限って、食料品を３日分程度配布しています。

フードドライブ事業でいただいた生理用品や食料品を活用するとともに、歳末たすけあい募金を活用して事業を実施しました。

### 【生理用品】

延配布数：10 件（昨年度：6 件）

### 【食料品】

延配布数：14 件（昨年度：10 件）

緊急時の対応として行っているが、中には、安易に借り入れできると勘違いをして、貸付を希望する者もいる。

この事業は、一時的支援のため申請等は不要で行っている。

困りごと相談室やケースワーカーからの相談依頼が増えていることから、事業の認知度が高くなっていると思われる。

### （５）フードドライブへの協力

社協だよりや本会ホームページに食品募集記事を掲載した他、ふれあいの里館内や遠賀町役場庁舎内に回収箱を設置して募集に努めました。ふれあい福祉フェアや町が行う人権フェスタにもブース出展し、事業の周知にも努めています。

また、町内の篤志者から寄付いただいた食料品やライフレスキュー事業を通してセブンイレブンより寄贈があった食料品、調味料等を「NPO 法人つどい えがお食堂」や「ちくようごはん」といった町内のこども食堂等へ無償提供するとともに、生活困窮世帯への支援物資として活用しました。

食料を長期的にストックできる環境ではないので、寄贈品は、できるだけ早く食堂等に配送するようにしている。

寄贈元	種類	配布先
一般住民	米・缶詰・レトルト食品 乾燥麺・野菜・菓子等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ えがお食堂</li> <li>・ ちくようごはん</li> <li>・ 年末見舞金申請希望者</li> <li>・ 生活福祉資金特例貸付申込者、ケースワーカーからの紹介による生活困窮者等</li> </ul>
セブンイレブン	菓子（サクサクコーン金のハンバーグ味） 120 袋 菓子（やわらかいか天） 300 袋	
壱番屋	ビーフカツ 300 枚	
全国労働者共済生活協同組合連合会 （こくみん共済 coop 福岡推進本部）	米 5 kg 6 袋	

## IX. 相談支援・権利擁護事業の拡充

## (1) 心配ごと相談事業

弁護士や心配ごと相談員から、日常生活での困りごとや悩みへの解決に向けた助言とアドバイスを受けられる機会となっています。

昨年度は、コロナ禍による中止がありましたが、今年度はありませんでした。平成30年度実績が48件であったことと比較すると、利用者はコロナ禍以前よりも多いことになります。

延相談件数：64件（昨年度：47件）

月	件数	月	件数	月	件数
4	6	8	5	12	2
5	5	9	8	1	3
6	4	10	7	2	6
7	6	11	3	3	9

## (2) 日常生活自立支援事業 【県社協受託事業】

本年度の新規契約は1名、解約は施設への転居による解約2名、成年後見制度への移行による解約1名、死亡による解約1名となっており、利用者数が減っています。

本事業は、専門員及び生活支援員を職員が行っており、他事業と兼務で対応しています。前年度からの課題であった複数職員での対応については、福岡県社会福祉協議会が実施する研修会に参加し、体制づくりに努めました。

介護支援専門員による事例検討会や地域包括支援センターが行った「成年後見制度研修会」で、パンフレット配布と事業の説明を行い、本事業の周知に努めました。

また、認知症等の進行により成年後見制度に移行するケースに備え、地域包括支援センターとの情報共有を行いました。

延利用者数：99名（昨年度：120名）

月	高齢者	障がい者	月	高齢者	障がい者
4	6	4	10	4	3
5	6	4	11	5	3
6	6	4	12	5	3
7	4	4	1	5	3
8	4	4	2	5	3
9	4	3	3	4	3

最も多い相談は、近隣トラブル等による法律相談で、次いで相続等の財産トラブルとなっている。この傾向は、昨年と変わっていない。一定したニーズに対応するため、今後も事業を継続する。

相談は数件あるものの、実際の利用では通帳を預けることに躊躇する事例もあり契約に至っていない。

現在対応している職員は2名で、専門員1名、生活支援員1名、どちらも他の業務と兼務している。

研修に参加し、対応できる職員数の確保はできたが、他の業務との兼務で実際の支援には至っていない。



## X. その他の事業

### (1) 介護ベッド・車椅子の貸出

介護用ベッドや車椅子が必要な世帯に貸出を行いました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスワクチン接種会場に車椅子を貸し出す等、柔軟な対応を行いました。選挙や身体障がい者福祉協議会の行事でも貸し出しており、利用を求める声は広がっています。

延利用者数：57名（昨年度：63名）

介護用ベッド：4名（昨年度：4名）

車いす：53名（昨年度：59名）

### (2) レクリエーション機材の貸出

地区ネットワークや福祉施設等から申出があり、イベントで使用する輪投げ、ラダーゲッター、ペタンク等の貸出を行いました。

延貸出件数：29件（昨年度：24件）

### (3) 臨地実習生の受入れ

福岡・医健スポーツ専門学校の看護学生の実習を受け入れています。

新型コロナウイルス感染予防を行いながら、いきいきクラブ及び地域で行われるサロン活動での実習を行いました。

延実習受入日数：4日（昨年度：1日）

延実習受入人数：18名（昨年度：4名）

実習日	人数
7月1日	4
9月1日	5
9月8日	5
9月15日	4

利用者数は微減となったが、例年、一定の利用がある。今後も新型コロナウイルスワクチン接種等の動向等に留意し、引き続き、柔軟な対応が必要。

地域で行われて、いる介護予防型サロンでの実習は日程の都合上、1回のみとなった。カリキュラムの問題もあるだろうが、社協事業や地域福祉活動を知ってもらうことを意識するならば、可能な限り、地域での活動に参加してもらえよう調整したいと考える。

#### （４）ふれあい福祉フェアの開催

地域福祉への意識を啓発し、住民からの福祉活動への理解と協力を得ることにつながる機会となるよう、下記の内容を実施いたしました。

##### ①福祉講演会

福祉に関する講演会として、NPO 法人福岡県レクリエーション協会 名誉顧問の佐藤靖典氏を講師に招きし、講演会を行いました。

開催日：10月16日（日）

参加者：80名

会場：遠賀町ふれあいの里 大広間

講師：（公財）日本レクリエーション協会公認  
上級レクリエーション・インストラクター  
NPO法人福岡県レクリエーション協会  
名誉顧問 佐藤 靖典 氏

内容：「福祉活動は、あなたと住民の皆さんを笑顔・元気・幸せにする活動です！『楽しみの先に 喜びがあると 生きがいになる』～心にここにからだはつらつの人生を？～」

##### ②ボランティア連絡協議会所属団体による活動紹介

団体の代表者による大広間での活動紹介と生涯学習室2でのパネル展示を行いました。大広間での活動紹介は、講演会終了後に続けて行いましたが、休憩時間に参加者が減り、40名前後の参加となっています。生涯学習室2でのパネル展示による紹介では、それぞれの団体の所属者が内容を確認するために見学されていたこともあり、一定数の入室がありました。

パネル展示の部屋では、ボランティア団体への参加申込書を設置しておりましたが、実際の申込は0件でした。

##### ③フードドライブ事業のPR

当日の食料の寄付は0件でしたが、フードドライブ事業の周知になりました。

##### ④福祉機材の展示

貸出事業を行っている介護用ベッドと車椅子を展示しました。介護用ベッド、車椅子ともに介護保険で福祉用具貸与の対象となる資材ですが、急な怪我など一時的な使用に対応する本事業の概要を周知することができました。また、実物を使用してもらい、実際の介護時にどのように活用するのか説明するとともに、介護予防の必要性および遠賀町で行われている介護予防事業を紹介することもできました。

これまで実施していた「健康福祉まつり」から「ふれあい福祉フェア」に大きく事業内容が変わったため、ボランティア連絡協議会をはじめとする協力団体に対しては、十分な説明が必要だった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症第7波の流行もあり、ボランティア団体が集合して打ち合わせすることが難しいと判断。文書にて案内・参加を募ったもののふれあい福祉フェアに対して思うように参加いただけない状況があった。

## (5) 中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会

中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会として、広域エリアでの連携や地域福祉の推進へ寄与できるよう、会議や研修会を実施しました。

## ①会長・事務局長会議

実施日	内 容	人数
8月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度事業報告・決算（監査報告）について</li> <li>・令和4年度役員について</li> <li>・令和4年度事業計画・予算について</li> </ul>	13

## ②係長会議

実施日	内 容	人数
7月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度事業報告・決算（素案）について</li> <li>・令和4年度役員について</li> <li>・令和4年度事業計画・予算（素案）について</li> </ul>	6

## ③ボランティア会議（中間・遠賀地区社協ボランティア会議）

実施日	内 容	人数
9月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間・遠賀地区ボランティア研修会について</li> <li>・ふくおかきずなフェスティバルについて</li> <li>・各市町ボランティア連絡協議会情報交換等</li> </ul>	10
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間・遠賀地区ボランティア研修会について</li> <li>・ふくおかきずなフェスティバルについて</li> <li>・各市町ボランティア連絡協議会情報交換等</li> </ul>	10
2月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間・遠賀地区ボランティア研修会について</li> <li>・ふくおかきずなフェスティバルについて</li> <li>・各市町ボランティア連絡協議会情報交換等</li> </ul>	10

## ④地域福祉担当職員会議

実施日	内 容	人数
10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の取り組みについて</li> <li>・県社協、各市町社協活動の情報交換等</li> </ul>	10
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協役職員研修会について</li> <li>・県社協、各市町社協活動の情報交換等</li> </ul>	9
3月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協役職員研修会について</li> <li>・県社協、各市町社協活動の情報交換等</li> </ul>	9

⑤ボランティア研修会

開催日：令和5年1月21日（土）

参加者数：136名

場所：遠賀町中央公民館 大ホール

講師：heave-fo + 一般社団法人岡垣スタイル

代表 眞山 昌 氏

内容：「ボランティアの実践活動紹介と講演」

⑥役職員研修会

開催日：令和5年2月18日（土）

参加者数：80名

場所：遠賀町中央公民館 大ホール

講師：①社会福祉法人福岡県社会福祉協議会

災害福祉支援センター 藤本 博昭 氏

②社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会

福祉課長 居川 茂 氏

内容：講義①「災害ボランティアセンターについて」

講義②「九州北部豪雨における災害ボランティアセンターの運営について」

各種会議や研修会を新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら実施することができた。実施後、参加者から、「対面集会で研修を受けることで、より内容の理解を深めることができ、今後の活動に活かしたい」との感想が寄せられた。



## XI. 新型コロナウイルス感染症対策事業【臨時】

### (1) 遠賀町新型コロナウイルス感染症

#### 自宅療養者等生活支援サービス【町受託事業】

令和4年度途中から受託した事業です。感染等により、外出ができない世帯への食料品及び日用品の配達を行いました。配送時には、本会事業を記載したチラシを梱包し、物質的な支援に留まらず、心に寄り添った支援を行いました。

延利用者数：37名

月	件数	月	件数
10	4	1	5
11	3	2	5
12	18	3	2

### (2) 新型コロナワクチン接種インターネット予約補助

本会職員が、高齢者等のインターネットによるワクチン接種予約が困難な方に代わって、予約手続きを支援しました。

延利用者数：265名

月	件数	月	件数
6	54	10	51
7	60	11	67
8	17	12	4
9	6	1	6

本事業を通じて、生活支援の一助として取り組むことができたほか、社協活動のPRを兼ねることができた。

利用者からは、大変好評をいただいた。職員は皆、他の業務を複数抱える状況ではあったが、協力し合うことで、利用者を待たせることがないよう留意した。

情報機器の操作が難しいという高齢者等が抱える制度のはざまの問題に柔軟に取り組むことができたと考える。

## 社会福祉法人福岡県共同募金会遠賀町支会の取組み

## 福岡県共同募金会遠賀町支会理事会

開催回	開催日	協議内容
第1回	書面決議 決議日： 5月6日	議案第1号「理事の選任について」
第2回	5月31日	議案第1号「令和3年度福岡県共同募金会遠賀町支会事業報告及び共同募金会計資金収支決算書（寄付金・事務費）について（監査報告）」
第3回	9月22日 決議日： 9月10日	議案第1号「令和4年度共同募金運動の実施計画について」
第4回	12月16日	議案第1号「令和4年度歳末たすけあい募金の配分計画について」
第5回	3月22日	議案第1号「令和5年度福岡県共同募金会遠賀町支会事業計画及び共同募金寄付金・本部サービス区分会計予算書について」

## (1) 赤い羽根共同募金運動 10月1日～3月31日(法定運動期間)

## 【赤い羽根共同募金】

実施日	活動名	内容	奉仕者数
10月1日	街頭募金運動	啓発活動として、社協職員とボランティア団体等により、「ゆめタウン遠賀店」にて街頭募金を実施	22名 (内職員3名)
10月1日 ～ 12月7日	戸別募金	区長会にて、各区での戸別募金運動について協力を要請	
9月25日	社協 だより 掲載	令和4年度共同募金実施計画掲載と共同募金チラシの折り込みにより掲載	全戸配布
10月11日 ～ 11月26日	法人募金運動	社協職員により、町内の法人、事業所を訪問し、募金への協力依頼を実施	6名 (内職員6名)
10月1日 ～ 12月31日	寄付つき商品	事業所等が提供する商品等を購入するごとに、売り上げの一部が共同募金会に寄付されるしくみ 平成29年度からスタートした。	3社

ボランティア連絡協議会加入団体等に協力を依頼し、街頭募金を実施した。音声ガイダンスを使用し、感染症対策を行った。

また、昨年度に引き続き、法人募金は振込依頼を行い、対面での接触をなるべく避けるように努めた。

共同募金実績 合計：3,335,006 円（昨年度：3,410,495 円）

活動名	内容	実績額（円）
戸別募金	区長を通じて各戸別に協力を依頼	1,834,080
法人募金	法人・事業所を訪問し、募金を依頼	1,090,500
イベント募金	福祉まつり開催時に街頭募金を実施	0
職域募金	各職域にバッジ・図書カード等を販売	321,850
街頭募金	ゆめタウンでの啓発募金活動他	37,053
募金箱	遠賀町役場やふれあいの里等に設置	7,154
その他の募金	赤い羽根自動販売機	20,444
	寄付つき商品	2,414
	任意団体からの寄付 (岡垣第一幼稚園)	21,509
	預金利息	2

## (2) 歳末たすけあい募金運動 12月1日～12月31日

歳末たすけあい募金実績 合計：463,220 円（昨年度：469,946 円）

実施日	活動名	内 容	奉仕者数	募金額（円）
10月1日 ～ 12月7日	戸別募金	区長会にて、各区での募金運動について協力を要請		458,820
12月1日	街頭募金	社協職員等により、ゆめタウン玄関前にて実施	9名	4,400

## 配分内容

配分内容	配分額（円）	備 考
要援護世帯への支援金	111,000	37名
緊急用食料等給付事業	61,511	
社協だよりの発行	290,709	

要援護世帯への支援は、例年申請制をとっているが、申請者は減少傾向にある。歳末たすけあい特有の配分となるよう、今後検討が必要。